



# とらいあんぐる



2016 年 3 月

一音会ミュージックスクール発行

## 「別れ」

3月です。別れのシーズンといっても良いかもしれません。

人と人との間には、出会いもあれば、別れもあります。

今回は、「別れ」について、考えてみたいと思います。

別れについて、私には、2つ、印象に残る話があります。その2つは、私自身が体験した話ではないのですが、いつまでも私の心に深く突き刺さり、奇しくも、ある同じ1つのことを教えてくれます。

1つ目のエピソードは、私の母の体

験談です。

私の母は、小学校の6年間、ずっと同じ先生に習っていました。

クラスがえもなく、毎日、オノデラ先生とおっしゃる、その担任の先生と1日を過ごし、その絆は言葉ではあらわせないほどに強いものでした。

オノデラ先生は、とても愛情深く、人間的に尊敬できる方でした。母も、当時の級友も皆、心からしたっていたといいます。

オノデラ先生は、音楽専科の資格もお持ちで、とても音楽を愛する方でした。いつもポケットにハーモニカをしるばせ、子どもたちに、いろいろな曲

をきかせてくれたといいます。

母は、オノデラ先生と、オノデラ先生の奏でる音楽が大好きだったそうで、音楽の道を志したのも、実はオノデラ先生の影響がもっとも大きかったと、いっていました。

そんな宝物のような6年間の日々の最後に、お別れの日がきました。小学校の卒業式の日です。

母は、オノデラ先生との別れを意味する卒業の日が近づくにつれ、悲しみがつのり、卒業なんてしたくないと、何度も本気で考えたそうです。

卒業式が終わった直後、母を含む級友が全員、思い出のつまった教室に集まりました。

オノデラ先生を待っていたのです。先生の定位置である教卓をかこむように、クラス全員が輪になりました。

オノデラ先生が教卓のところに来るのを、今か今かと、待ちました。

皆、これまでの6年間、毎日そうしてきたように、オノデラ先生とたくさん話をしようと思っていたのです。

あまりにも別れがたかったため、「も

うこれがお別れだ」という現実を、誰も直視していなかったと、母は回想します。

皆、いつものように、オノデラ先生と、たくさん話ができると、信じて疑っていなかったのです。

その時です。

オノデラ先生は、突然、教室のうしろのドアをガラッと、勢いよく開けました。

先生は、ひょいと顔だけを教室に入れ、大きな声で、「さようなら〜！」といいました。場違いなほど明るく、すっとんきょうな声だったそうです。

先生は、いい終わるやいなや、くるとまわれ右して、走り去ってしまいました。一度もふりかえることなく、です。



教卓の周りにいた生徒たちは、教室の前の方にいたために、先生の表情を見ることさえできませんでした。

あまりに突然のことに、あっけにとられていましたが、数人の男の子が、はっとして廊下に飛び出し、あわてて先生のあとを追いかけてきました。

しかし、もう先生の姿は、どこにもありませんでした。

「まさか、あれがお別れであるはずがない」

生徒たちは、その後も、先生が教室に戻ってくるのを、ずっとずっと待ち続けました。

しかし、いつまで待っても、先生は教室に戻ってきませんでした。

そんな卒業式の翌日、生徒たちは、また小学校に集まりました。

大好きな先生に、一目会いたいと思っただけです。しめしあわせたわけでもないのに、春休み初日、気がつけば、クラスのほぼ全員が校庭に集まっていたそうです。

皆、先生が出てくるのを、ずっと待ち続けました。

生徒たちが校庭に来ていることは、職員室から、よく見えているはずだからです。気づいたオノデラ先生が、出てきてくださると、皆、信じていました。

しかし、先生が出てくることはありませんでした。

他の先生が出てきた時に、その先生に、「オノデラ先生に会いたい」と、お願いもしました。しかし、どの先生も一様に困った顔をし、「もう、おうちに帰りなさい」と、いうのみでした。

次の日も、皆、同じように校庭に集まり、同じように先生が出てくるのを待ちました。

その次の日も、そしてまた次の日も、です。

日が経つにつれ、集まる生徒たちは、1人また1人と、減っていったそうです。



「どうして、先生は会ってくださらないのだろう。ぼくたちは、こんなに先生に会いたいのにな」

「卒業した私たちのことなんか、どうでもよくなっちゃったのかしら？」

「オノデラ先生にかぎって、そんなことは絶対はないよ！」

「じゃあ、どうして?!」

子どもたちは、先生の真意が分からず、もんもんとするのみでした。

先生はとうとう、一度も、生徒たちの前に姿をあらわすことはなかったのです。

母はいいました。

「当時は、皆、子どもだったのね。先生が、どんなにおつらかったか、全然、思っていたらなかったわ。あの愛情深い先生が、どんな思いで、私たちを送り出したか……。当時の先生の年齢を追いこして、今、先生の心を想像すると、泣けてくるわ。あれこそが、先生の愛情だったのだわ」

6年間、毎日毎日、長い時間、接してきたのです。嬉しいことも、悲しいことも、全部、共有してきたのです。

その日々に別れを告げて、新しい世界に飛び込み、新しい人間関係を作っていくことが、まだ幼さの残る、あの子どもたちにできるだろうか？

自分との強すぎる絆が、あの子どもたちの旅立ちをジャマしてしまうのではないかな？

中学に入って、中学の先生と出会い、良い関係を築くには、あの子どもたちの中から、過去の存在である自分を消さなくてはならない。

先生は、そうお考えだったのでしょうか……それが母の解釈でした。

その解釈がはたして正解だったのか、確かめる日が、50年余を経て、母におとずれます。

母は、60代半ばになって、クラス会にはじめて参加し、卒業式の日以来、はじめてオノデラ先生に再会します。

母は、先生にあの日のことをたずねました。春休み、毎日、毎日、自分たちが訪れたことも。

もしかしたら母は、あの日のことを先生に問いたくて、クラス会に参加したのかもしれませんが。

オノデラ先生は、苦笑されました。  
母の解釈は、やはり正解でした。

「ぼくはね、君たちが校庭に来ている間、職員室の机につっぷして、ずっと泣いていました。顔をあげることもできませんでした。走り出して行って、君たちを抱きしめたい衝動をおさえるのは、本当に本当にたいへんでした」

オノデラ先生にとっても、まるで昨日の事のように鮮明な記憶だったのでしょ。

昨日の話をするかのように、先生ははっきりとした口調で語ります。

「あれが、ぼくのせいっぱいの愛情だったんです。あの時、心を鬼にして、はっきりとした形で君たちと別れることが、ぼくにできる最大のはなむけだと思ったんです。君たちには、心をまっさらにして、中学校生活の第一歩をふみだしてほしかったんです。ぼくのことや小学校時代のことに、心を残しては、それはできないと思ったんです」

なんと深い愛情か、と圧倒される思いです。

良い別れとは、「別れた後」の相手を思いやることができること、なのかもしれせん。

私のこれからの人生にも、多くの別れがあることでしょう。

別れである以上、自分の中に、悲しい気持ち、さびしい気持ちが、いっぱいにあふれることでしょう。

しかし、そんな中でも、別れた後のその人が幸せであることを一番に願う、そんな別れ方をしたいと、心から思うのです。

(江口 彩子)



## ◆「ピアノ・トライ」が終わりました

6日にわたる「ピアノ・トライ」と、2回にわたる「ル・コンセール」が、すべて無事、終了しました。

年があけて間もなくの、まだ気ぜわしい時期であったにもかかわらず、たいへん多くの方に、ご参加いただくことができました。どの日もスムーズにおこなうことができましたのは、ご家族の皆さまのご協力あつてのことでした。本当にありがとうございました。

「ピアノ・トライ」では、良かったことばかりでなく、改善点やこれからの課題なども、率直にお伝えしています。今年1年、さらに上手になるために、ぜひ心にとめて、練習に取り組んでみてください。

来年度も、この時期に「ピアノ・トライ」をおこなう予定です。くわしくは、追ってお配りする、年間スケジュール表で、お知らせいたします。

## ◆新年度時間割をお組みしています

現在、みなさまからお出しいただいた新年度変更希望表をもとに、4月からのレッスン時間割を作成しています。

曜日、時間帯、コースについて、変更を希望された方の多くには、時間割に関するご相談のお電話を差し上げているところだと思います。少しでも、お一人お一人の生徒さんのご都合にかなう時間割となるよう、努力を続けております。

しかし、物理的にご希望をかなえることが難しい場合もあり、その点は、どうかご理解ください。たとえば、曜日や時間帯を変更される場合、以前からその日時にレッスンを受けていらっしゃる生徒さんが優先されます。そのため、「そのままの担当で」とご希望をいただいても、同じ担当でお組みできるとはかぎりません。

また、お電話を差し上げた時に、お留守だった場合には、留守番電話やFAXやメールで、ご相談内容をお知らせしていますが、もし可能であれば、本部まで折り返しお電話いただければと思います（03-5966-7711）。といたしますのも、同じ時間帯、同じ担当で希望される生徒さんが2人以上いらした場合は、同じ条件であれば先着順となり、先に連絡をくださった生徒さんから決まってしまうと思います。ご面倒かと

と思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

以前にお出しくださった変更希望表に変更が出た場合にも、なるべく早く、ご連絡ください。

## ◆おひっこし後もサポートします

この春、おひっこしで、教室からお遠くなられ、通うことがたいへんになってしまわれる生徒さんも、いらっしゃると思います。または、学年が上がって生活が忙しくなり、やはり通うことが難しくなられるケースも少なくないでしょう。

そのような場合も、一音会は、これまでのおけいこが絶対に無駄にならないようにする方向で、サポートさせていただきたいと思っております。たとえば、絶対音感のおけいこは、完成を待たずに中断してしまえば、それまでのおけいこが、何の結果も生まないことになってしまいます。

一音会では、以下の4種類の通信教育を、ご用意しています。

**「ミミちゃんクラブ」：ご自宅のピアノを使った、絶対音感のレッスン**

**「ドクターP」：インターネットを使った、絶対音感のレッスン**

**「こんこんクラブ」：インターネットを使った、ピアノのレッスン**

**「あれぐろクラブ」：郵送でやり取りする、ソルフェージュのレッスン**

この4つの通信教育には、以前、教室にお通いいただいていた、ご事情でお通いになれなくなった生徒さんも、もちろんいらっしゃいます。

しかし、実はほとんどの方は、最初から通信教育によって、ご自宅にしながら、一音会のレッスンを受けていらっしゃる方です。海外で受講されている方も、たくさんいらっしゃいますが、みなさん、教室にお通いになっていらっしゃる生徒さんと、大きく変わることはありません。

また、活用のしかたも、一通りではありません。たとえば、月に1回、教室にレッスンにいらっしゃり、月に1回、ご自宅でレッスンを受ける、というように、教室と「こんこんクラブ」を、上手に並行させている方もいらっしゃいます。ピアノは教室でレッスンを受け、絶対音感のレッスンを「ドクターP」で受けている方も

いらっしやいます。

どんな場合も、お一人お一人のご事情を考え合わせ、一番、ご負担なく、おけいこを続けられる形を、いっしょに考えて参りたいと思っております。

ご興味がおありの方は、ぜひ資料をご請求ください。本部(03-5966-7711)でも、積極的に、ご相談にのらせていただきます。

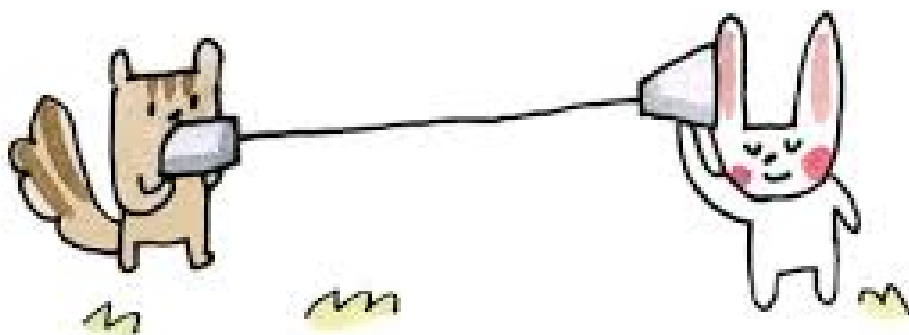
### ◆新時間割を電話でお知らせします

新時間割は、新年度からの担当が、3月29日(火)または30日(水)に、主に電話で、みなさまにお知らせします。

もし、4月3日(日)になっても連絡がいかない場合は、何かの手ちがいが起きているかもしれませんので、お手数ですが、生徒さんのほうから、本部まで、お電話ください。

この期間、ご旅行などでお留守にされる生徒さんは、携帯電話の番号を、事前にお知らせください。こちらからメールやFAXで連絡をさしあげた場合は、ご面倒ですが、受信したことをお知らせいただけますと、たいへん安心します。

ご協力を、よろしく申し上げます。



### ◆インフルエンザがはやっています

皆さま、よくご存じのように、インフルエンザが大流行しています。教室が感染の場になってはならないと思っています。

感染防止のため、スタッフのうがい手洗いはもちろんのこと、教室の換気や鍵盤



の消毒など、できるかぎりの努力をしております。

生徒さんも、レッスン前後には、よく手を洗うようにしてください。また、声楽、フルートのレッスン以外では、マスクを着用したまま、レッスンをお受けいただき、もちろんけっこうです。教室でも使い捨てのマスクをご用意していますので、お使いになりたい方は、受付でおっしゃってください。スタッフも場合によっては、マスク着用のまま、レッスンをさせていただきますことを、どうかご理解ください。

## ◆一音会卒業生が活躍しています

一音会の卒業生で、東京芸術大学指揮科1年生、平塚太一さんが、3月16日(水)、台東ミレニアムホールで、オーケストラの指揮をします。

平塚さんは、まだ指揮科の学生さんですが、勉強の場を作るため、このコンサートを自ら、企画、運営しています。

教室にも、チラシを置いてありますので、ご興味がおありの方は、ごらんください。また、もし演奏会に足を運べる方がいらっしゃいましたら、若く志のある音楽家を応援する意味で、ぜひチケットを購入してあげてください。

3月16日(水) 18時開演(17時開場)

台東ミレニアムホール

一般 1500円 学生 1000円

チケット問い合わせ先：[yatataphil@gmail.com](mailto:yatataphil@gmail.com)



**W.A.Mozart : 交響曲第29番 イ長調 KV.201**

**J.Haydn : チェロ協奏曲第1番 八長調 Hob.VIIb-1**

**W.A.Mozart : 交響曲第40番 ト短調 KV.550**

また、来年度から新しく一音会のスタッフに加わるようになった増田椿先生は、3歳前から一音会に通ってくれた生徒さんであり、かながわ音楽コンクール高校の部をはじめ、いくつかのコンクールに入選された後、桐朋音楽大学へとすすんで現在活躍中のピアニストです。

卒業生の皆さんのご活躍を耳にするのは、本当に嬉しいことです。これからも、コンサートの告知はもちろんのこと、留学準備や就職活動など、一音会が力になれることは、ご卒業後もずっと、サポートさせていただきたいと思っています。

ご卒業後も、どうか近況をお知らせください。そして何かあれば遠慮なく、ご相談ください。

## ◆新年度のレッスン開始日

新年度最初のレッスン日は、次のようになります。

お間違えのないよう、ご注意ください。

月曜日・・・	4月11日	土曜日（毎週）・・・	4月9日
火曜日・・・	4月12日	土曜日（偶数週）・・・	4月9日
水曜日・・・	4月13日	土曜日（奇数週）・・・	4月16日
木曜日・・・	4月7日	日曜日（月1回）・・・	4月17日
金曜日・・・	4月8日	日曜日（月2回）・・・	4月10日
		日曜日（月3回）・・・	4月10日

みなさま、良い春休みをお過ごしください。新年度も、引き続き、どうかよろしくお願いたします。

\*\*\*\*\*

スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：[1000@ichionkai.co.jp](mailto:1000@ichionkai.co.jp)      電話：03-3954-9999

\* お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。（今年度より、月曜日の夜に行なっております。よろしくお願いたします）

\* ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。